

ぎに着くバスを逃すと、約30分の道のりを歩かないといけません。重い荷物を持っていたり、夏の暑い日でなければ、通用門側から登っていくと、神姫バスの公園都市バス停から中央管理棟まで30分そこそこで着くとはいうものの…。ただ、PFへ行くときに、つくばセンターまでしかたどり着けなかった場合よりは、歩く距離は少なく済みます。(つくばセンターからならタクシーを使う方が普通でしょ

う。)

実験室では到底得られない質と強さのビームが利用できる放射光施設が、日本列島のあちこちに出来つつある現在、既存の放射光施設とSPring-8を利用者の立場で比較することも、SPring-8がより使いやすくし、優れた成果を産出する拠点になる一助になるのではと考え、ごく日常的なことではありますが、思いつくことを書かせていただきました。

## ユーザーの声

### - 放射光・学会・SPring-8 -

株東芝 先端半導体デバイス研究所  
竹村 モモ子

1月9～11日に播磨科学公園都市の兵庫県立先端科学技術支援センター(CAST)で開催された第11回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムに参加し、運転開始後初めてSPring-8を見学した。

東京が大雪の日の翌日に電車の遅れを心配しながら新幹線に乗ったが何事もなく播磨科学公園都市に着きほっとした。東京からは少々遠いが着いてしまえば設備の良いCASTと隣の姫工大での学会は快適であった。私はCASTに宿泊できたが公園都市外に宿泊すると少々不便だったかも知れない。9日夕方はSPring-8で開催された分析サブグループのミーティングに参加しBL39XU生体分析ビームラインを見学した。ビームライン立ち上げの様子はサブグループのメールで知らされていたが現場で直接聞く説明は印象が強い。蓄積リング棟とその周辺は設備が新しく明るい印象だが、まだ実験ホールも準備室もガランとしていて立ち上げ途中であることを感じた。見学後夜中過ぎまで懇親会に参加し、タクシーを呼ぼうとしたが通じない。メンバーの車で送ってもらえたが、あとで問い合わせたらタクシー会社の事務所は朝6時半～夜10時までとのことであった。

翌10、11日が学会であった。今回はSPring-8立ち上げ中のためもあり発表件数は若干減少したという

ことであったが、SPring-8での実験成果の発表があり、東京地区から遠いにもかかわらず参加者は多かったと思う。私が参加したポスターセッションは昨年に劣らぬ盛況で充実したものであった。企業展示が増加したという話もあったが、弊社でもこれからの事業のひとつとして放射光設備建設が以前より重要視されている。また運営の面でSPring-8が企業利用に開かれているのは大きな特徴であり、今後は建設と利用の両面で放射光と企業との協力関係が強くなることを今回あらためて感じさせられた。

放射光学会には昨年に続き2度目の参加である。1度目の印象は、ポスターセッションの盛況と、木目細かい運営と、そして「土、日」に開催されること、であった。今回は私もポスターセッションでPFで実験したXAFSの発表を行ったが、面識のなかった方からも貴重なコメントをいただきありがたく思った。他のポスターも良く見たかったが時間が足りなくて見たいものの3割も見られず残念であった。ところでポスター発表には、次のようなメリットがある。色々な発表を並行して見ることができる。

見たい発表だけピックアップできる。質問し易い。超先端的議論もできるし、極初歩的質問もできる。興味のあるデータをゆっくり見ることがで

きる。ごく自然に色々な人に会える。しかし実際には上記のメリットの故、「1 見たいポスターの前には必ず人が居て長々と話し込んでいて発表内容を見ることができない」「2 知人と会い話し込むうちにポスター展示の時間が過ぎてしまう」という状態で見たいポスターのごく一部しか見ることができなかった。「2」は自分で解決すべき問題だが「1」についてはポスター展示法を少し変えれば解決されるのではないかと思う。今の縦長のポスターでは人が2人立つとほとんど隠れてしまうので、ポスター掲示板を横長にすると良いと思う。幅180cmあれば2、3人が議論していても内容の一部を読むことができる。横長ポスターにすると展示面積が2倍以上必

要になり、予算的、場所的制約が深刻になるかも知れないが、できれば検討してほしい。

今回の学会ではSPring-8での色々な実験成果が多く発表された。順調にデータが得られている一方で何らかの問題点がはっきりしたという話もあった。それらの全体からSPring-8の完成に向かって多くの方の努力があり着実に進んでいることが感じられた。私自身は現在、企業共同体専用ビームラインの準備に参加すると共に上記の分析サブグループに参加し、これから実験に参加する予定である。今回の学会でSPring-8を訪れて、「我々はSPring-8という大きな放射光施設の立ち上げという希有な機会に参加している」ということをあらためて感じた。

## ユーザーの声

### - SPring-8を利用した感想 -

徳島大学 総合科学部  
沼子 千弥

BL39XUでの共同利用実験に参加するために、鳴門の渦潮を越え、明石焼きに後ろ髪引かれながら車を走らせSPring-8に到着したのは、1997年11月上旬のことです。冬と呼ぶにはまだまだ早い時期でしたがSPring-8付近ではお土地柄、朝夕の冷え込みが厳しく、外ではすでに厚手のジャケットが必要でした。しかしSPring-8のホール内ではトレーナーにジーンズといった軽装のユーザーがほとんどで、これだけ広い空間にもかかわらず暖房が十分に利いていて快適です。些細なことかもしれませんが衣類の重量や気温は以外にヒトの行動を制限しており、体力勝負の放射光実験(?)ではこのような些細なことも積み重なって全体の作業効率に影響を与えることもしばしばです。私のSPring-8に対する第一印象は、「ヒトに優しい実験施設」でした。

私自身がSPring-8での放射光実験に参加したのはまだこの一回のみで、ユーザータイムが開始されてからの実験について第一印象しか持っていないユー

ザーのひとりです。しかし一般ユーザーの方がビームラインでの実験設備の次に興味があることは、宿舎や食堂といった設備の快適さに関することだと思います。BL39XUでの蛍光X線分析実験に関しては、東大の早川先生や金材研の桜井先生、東京理科大の中井先生のお書きになられた報告書に詳細がありますし、ここでは実験に参加したときの私個人の感想を述べさせていただきます。

まずは共同利用の申請書をインターネット経由で簡単に入手できることや、個人登録用の写真に関してデジタル画像のファイルをインターネットメールに添付して事務に提出する事も可能であるなど、インターネット時代にOPENした実験施設にふさわしくインターネットを活用する形での合理化を図っていることをうれしく思いました。またビームラインに設置してあるパソコンにはチャット用のソフトが常駐させてあり、中央管制室や他のビームラインの状況をリアルタイムに把握することができるのも便